

# 思い出す人々



西山 厚 全24回

## 第5回 【一言主大神】

ある日、雄略天皇が家臣たちを正装させて葛城山に登ると、向こうからそっくりな人たちがやってきた。

「この国に私を除いて王はいない。何者か」と問うと、同じ言葉が返ってきた。

天皇はひどく怒り、家臣とともに弓に矢をつがえると、向こうも同じことをする。

「名を名乗れ。名乗り合つて矢を放とう」と声を掛けると、思いがけない答えが返ってきた。

「吾（あ）は、悪事（まがごと）も一言、善事（よごと）も一言、言離（ことさか）の神、一言主（ひとことぬし）の大神（おおかみ）ぞ」

神様だった。天皇は非礼をわび、弓矢も衣服もすべて献上した。

子どもの頃に『古事記』を読み、この決めゼリフをすっかり気に入った私は、それ以来、一言主大神には崇敬の念を抱いている。

言離の神という言い方にも心ひかれる。言離。言葉を離れる。無駄な言葉はいらぬ。一言だけでいい。

思い出す人々というテーマなのに、一言主大神は、もちろん人ではない。が、気にしない、気にしない。